



西小だより

学校 Web サイト：上尾市 西小 [検索](#)

令和6年度 学校だより NO. 6
令和6年9月27日
上尾市立西小学校
発行責任者 校長 石塚 昌夫



10月 明日に向かって！

校長 石塚 昌夫

- ◆ 復興途中にもかかわらず、前線と低気圧の影響により、記録的な大雨に見舞われた、能登地方の皆様をはじめ、被災されている皆様に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。
- ◆ さて、校長のところには、毎日、たくさんの決裁文書が届けられ、さまざまな事案に係る報告に対し、判断したり、決断したり、また、経営方針に沿って自ら職員に対し、課題解決の方向付けや指導を行ったりと、じっくり練り上げたいことがあっても、一日が、あっという間に過ぎていきます。特に、子供たちに関わる事案については、さまざまな判断に、迷う時もありますが、その時は、子供にとって、どうすることが一番良いのかと、協議を進めながら、熟考することにしていきます。その結果は、子供に逃げ道を残し、今後に期待する場合もあれば、職員を含め、対応に試練を課すことになる場合もあります。しかしながら、子供に関わる事案の場合、たとえ、今の試練は厳しくても、必ずや乗り越えて、成長してくれるものと期待し、見守っています。学校は、間違いや失敗を経験しながら、学ぶところでもあります。度が過ぎなければ、すべてのことが、よりよく生きるための学習なのだと考えています。
- ◆ また、子供の真の頑張りを見つけて、ほめて育てることを大事にしながらも、ダメなものはダメと、毅然と叱れないようでは、将来、子供をダメにしていくものと考えています。もちろん、叱られてばかりでは、自尊心や自己有用感が育たないのは、当然です。しかしながら、体罰や虐待ではなく、叱られた経験がないまま育った子供は、叱られる場面に遭遇した時に、耐性があるのかが心配です。私などは、社会に出てからも、叱られたことが、いっぱいでした。ほめられるだけでは、「気づき」が増えない場合もあります。できれば、叱らないで済む子育てが、理想といえるかもしれません。叱るとなると、子供との信頼関係も、不安になるものです。他人様に頭を下げて回らなければならない事態もあり得ます。頭を下げる親の姿を見れば、子は二度と心配をかけまいと思うかもしれません。でも、仕事が忙しい現代の親にとっては、大変な負担です。よって、叱るではなく、まず、怒ってしまうこととなります。非を正当化し、相手を攻撃し、自己防衛に走ってしまうこともあります。学校が、その苦情処理を請け負うことも、往々にしてありますが、叱るは、容易ではないのです。
- ◆ 明日は、運動会を予定しています。PTA活動の一環で、親子除草を行ってくださり、子供たちの舞台となる場も整いました。あとは、雨が落ちず、暑さ指数も上がらない天候になることを祈るばかりです。行事というものは、天候に恵まれ、無事故で実施できれば、おおむね成功と言っても過言ではありません。ところが、近年の気象状況は、学校運営を悩ましくしており、判断も難しくなっています。校長としては、考え抜いての決断なのではありますが、ご迷惑をかけることもあります。予定が変更となれば、保護者としても、休暇の変更や仕事のやり繰りが困難になるなど、不満や怒りの矛先は、学校へと向いてしまうかもしれません。人は、自分の都合に合わない、誰かのせいにして、否定的に考えるようになり、愚痴を言って、後ろ向きな生き方に陥ってしまうことがあります。現在の状況を突破するには、常に主体的に捉えて、自分の心のあり様を変えて、明日に向かって、未来に向かって、事実に対処することが大事なのです。子供たちには、このような生き方を身に付けさせたいものです。
- ◆ 今週は、「P R A I S E週間」と銘打って、運動会や音楽会の練習で、発破をかけている子供たちを見る視点を変えて、教員が意識して、積極的に称賛していこうと取り組んでみました。この結果、やる気にみなぎっている子供たちが増えていることを期待したいところです。当日は、子供たちの真剣な顔、緊張している顔、必死になっている顔、精一杯やっている顔、みんなと心をつなぐようとしている顔、そういう素敵な顔、きらきらしている姿を、たくさん見られることを楽しみにしています。今年も、どうぞ、たくさんの拍手で、盛り上げていただければと存じます。